原子力談話会規約 （1954年10月決定）

1(名前) 会の名前は 原子力談話会 とする。

2(会員) 会員の資格は 常勤として 研究会(原子力研見に直接たずさわれる人という意味ではない)で、会の発話(談話会発言者)の表現に努力しようとするとする者とする。

3(入会) 入会は会長の紹介をえて 常任委員会で決定する。

(1)紹介とは紹介者が 会の発言を説明して本人が雄弁したことの意味で、委員会決定としたもの、その人の入会について常任の存を再確認にするためである。

4(賛助会員) 会の発言に賛成し、その活動を援助しようとする人を、常任委員会の決議をえて、賛助会員することが出来る。

5(賛助会員) 会費は 半年250円 とする。但し県生及び県外研究生は 半年150円とするが、会員上の差別はない。賛助会員は賛助以上とする。会費は半年毎の 紹介者 とする。会費は4月及び10月に縮め、途中の月から入会したときは総数の月に従い1月50円、(県生無籍者1月30円)で計算する。年に2回会計報告を行う。

6(解消) 会の全体の意欲は総会で決める。但し総会を開くことが困難な場合は、各会で 総会・視察の代表からなる 常任委員会が発行する。取締事の理由(旅費)から東京在住の要望に 常任委員会を総会する。常任会は会計制とする。特に会費が常任長と
委員会の人数と人選は、総会で決定し、任期は1年とする。

7(支部) 必要において地方別、又は質問別に支部を設けることが出来る。
支部のある地方からがわらず地方別には必ず連絡係をおく。

8(ニュース) 情報や意見を交流するために、なるほど月一回談話会ニュースを発行する。

9(活動) 日常活動としては研修会、訪問会等を地方別、取ったは質問別事情に応じて行う。

10. 地方とのつながりを密くするため、普段活動を組織的に行う。

申合せ要項（1954.10）

1. 竣工を助けるため、会員が要望によりして静訳に答えるか、本を着せた場合、でき
るにせよ談話会に参加する（手数料の5%退会）とくに、おずく書院「愛子川」の場合は、
手数料の10%を談話会に納める。

2. 会費および談話会への参加による収入は、全国の会員の直接関係の活動にのみ使い、
とくに要望だけの勤しきに支部活動にみささげ。地方別の裁判所別に考えられる。

3. 1954年中は世話人会が理事委員会を代理する。世話人は、策画、大坂、長崎、京
都、兵、師の7名である。会長は専任の副会長大坂、会計は、夏目教授で扱う。

4. 地方からの会議の理事会は、理事委員会が来春までの地方と相談して決める。

5. き年度からの会計の諸表は、理事委員会の制度に従うが、具体的方法はその都度の事情に
応じて、理事委員会が遂行方法の案を出して皆に通じる。